

横穴式石室の構築原理を考える

— 研究ノート：岩橋型石室を題材として —

堀 真人

目次

1. はじめに
2. 横穴式石室の特徴と本論の目的
3. 横穴式石室の地域類型と岩橋型石室
4. 岩橋型石室の変遷と属性の確認
5. 岩橋型石室の変遷の解釈
6. おわりに

— 論文要旨 —

考古学においてモノの形の変化を考えると、機能的属性、意匠的属性、技術的属性の3つの属性を意識する。土器を例にするのであれば、機能的属性＝煮炊きする、貯蔵する、盛り付けるために必要とされる属性、意匠的属性＝文様や顔料の塗布など実用の面では必ずしも必要としない属性、技術的属性＝器壁を薄く仕上げるためのケズリ、粘土内の空気を抜くためのタタキなどのモノの成型に必要な属性といったように、具体的に属性をあげることができる。一方で土器のような遺物とは違い、遺構である横穴式石室を主題としたらどうであろうか。埋葬施設という機能的属性、平面形における片袖式、両袖式といった袖形式や縦断面形における穹窿頂（ドーム状）天井、平天井といった意匠的属性、水はけをよくするための排水溝の設置や穹窿頂の天井を構築するために側壁を持ち送る、隅（角）を消すといった技術的属性が具体的な属性の例といえるだろう。そして、さらに機能的属性を示す埋葬施設としての機能を具体的に示すとすれば、「葬送儀礼」を実施する場といえる。

岩橋型石室は、和歌山県の北部、和歌山市に所在する岩橋千塚古墳群を中心に分布、変遷する横穴式石室の地域類型である。本稿では、地域類型の一つである岩橋型石室について、横穴式石室の形を決定する上記の3つの属性、機能的・意匠的・技術的属性のうち、機能的属性を重視して検討をおこなった。また、検討にあたっては、横穴式石室を構築する主体を発注者や施主として被葬者（集団）、施工者として石室工人の二つの立場を仮定して整理を試みた。

このように横穴式石室の形を構成する属性、特に機能的属性に注目するのであれば、岩橋型石室の埋葬施設としての機能的属性とは何を示すのであろうか。従来から指摘されているように岩橋型石室は、九州系横穴式石室で表現される「開かれた棺」としての機能がこれに相当すると考えた。その機能を演出する（成立させる）装置として玄室前道、板石による閉塞、石柵、屍床（石障）が採用され、変遷したと想定した。

そして、機能的属性を岩橋千塚古墳群内、周辺地域に分け、時期別にその変遷を整理した。機能的属性は、一方向的な変化を経ながら維持されていく様子がうかがえる。機能的属性によって維持されるべき葬送儀礼の観念（「開かれた棺」）が岩橋千塚古墳群内においては一貫して維持されていると評価できる一方で、周辺地域に岩橋型石室が採用されていく過程で、機能的属性と意匠的・技術的属性が一致しなくなっていく様子が明らかになった。

このような状況が生じる理由は、横穴式石室の築造を希望する施主＝被葬者（集団）と、実際に造る施工者＝石室工人の意図の不一致をあげたい。つまり、岩橋千塚古墳群においては、被葬者（集団）の意図する葬送儀礼を的確に石室工人がくみ取って形にしているといえ、それは施主と施工者一体化、岩橋千塚古墳群のお抱え石室工人であったと考えた。一方、周辺地域で石室を構築する場合は、被葬者が石室工人を岩橋千塚古墳群の被葬者（集団）から借り受け、石室を構築するが、そこに表現されている意匠的・技術的属性が、機能的属性に基づくものであることを被葬者（集団）が共有しなかった結果と考えた。

——— キーワード

横穴式石室 岩橋型石室 機能的属性 葬送儀礼 被葬者と石室工人